

かみなりまついせき
神成松遺跡

伊勢原市No.74・156

- 調査期間** 2017年11月1日～12月28日
所在地 伊勢原市上粕屋字立原
時代 近世、中世、奈良・平安、古墳
弥生、縄文、旧石器
調査原因 一般国道246号（厚木秦野道路）
建設事業に伴う埋蔵文化財発掘
調査
遺跡位置 小田急小田原線伊勢原駅の北西約
3キロに位置する。



主な調査成果

平成29年度は、第8地点1区の調査を行いました。近世・中世は南側で行われた県道の調査に繋がる溝やピット群が発見されました。

弥生時代では、土坑とピットが発見されました。このうち2基の土坑は大型で、落とし穴の可能性も考えられます。南側の県道の調査では、住居が20軒以上確認されていますが、今回の調査では、住居は発見されませんでした。

縄文時代では、住居と集石が発見されました。住居は竪穴住居と敷石住居でした。南側の県道の調査では、住居の発見が非常に少なく、北側の産業能率大学周辺の調査では、数多くの住居が発見されています。台地上に広がる集落の南限が見つかったのかもしれませんが。



縄文1面全景（神成松第8地点）